

No.2347

山頂のアセビは咲いたかな？

シダンゴ山

実施日 2008年4月12日（土）

天候 曇り

リーダー 横山 玲子

参加者 上野キヨ、友近洋子、飯島義江、小野節子、一柳昭、山口駿三、岩井康子、伊東勝昭、馬場清土、山崎富美恵、鈴木恵美子、萩野智恵子

計13名

タイム 新松田駅(9:05バ ス)寄(9:33~9:40)シダンゴ山(11:15~11:55)宮地山(13:00~13:20)寄(14:00~14:35バ ス)新松田駅(15:05)

新松田駅発のバスは通路も立つ人でいっぱい満員でした。終点寄のバス停は寄自然休養村管理センター横の広場で桜の木に囲まれ、花びらの絨毯でした。

天気予報では行楽日和と言っていたはずなのに今日の丹沢の山々はみんな雲の中です。



何とか気を取り直します。まずは中津川に掛る大寺橋を渡り民家の中の車道を行きます。茶畑が出てくると傾斜がきつくなると後からボヤキの音が聞え、やがて寄の町が真下に見えます。

30分程で車道も終わり鹿避けのゲートをくぐり山道となります。

杉の植林の中は霧もかかり暗く時々顔に冷たい霧雨がかかります。ジグザグにひたすら登って行くと目の前が明るくなり、アセビが一面生い茂るシダンゴ山の頂上に着きました。

期待にこたえてアセビは小さい白い花をいっぱいつけて私達を待っていました。空は一面灰色の雲、もう一つの期待の展望はぜんぜんなし、雨が降らないだけでもよ



期待にこたえてアセビは小さい白い花をいっぱいつけて私達を待っていました。空は一面灰色の雲、もう一つの期待の展望はぜんぜんなし、雨が降らないだけでもよ

かったと思いここで昼食。

下りは西へヒノキ林の中丸太段を一気に下ります。道標があり前方にも

う一つ山が見えるが我々は直角に曲がり左へと雑木林の中をゆるやかに下る、高圧線をくぐると道は二分、右宮地林道、我々は左へ、道は登りとなり木の間越し左側に登って来た尾根、振り返るとシダンゴ山が見えます。

588mのピークを過ぎると下りになり分岐



へ、左管理センター、直進宮地山5分と出ました。この辺りまで来ると芽吹きの色が何とも柔らかく美しい。宮地山の

山頂は樹林に囲まれ展望はなし。時間に余裕があるので一休み。先ほどの分岐まで引き返し路肩のせまい急坂を下りまたゲート過ぎると茶畑、そして民家となり大寺橋を渡ると寄のバス停に到着、管理センターはお風呂もあり、宿泊も出きます。



ここは自然休養村としてマス釣り場、キャンプ場、民宿とさまざまな施設があります。

新松田駅に着いたのは3時を過ぎたばかりでしたが駅前には開店しているお店があり、こぶし会貸し切りで盛大な反省会となりました。今度はスカーツと晴れた日に登りましょう。そして富士山や丹沢主脈等の素晴らしい展望を見て欲しい！

(記・横山 玲子)

